

感染症定期報告感染症別文献一覧表(平成20年10月1日~平成21年2月28日)

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Eurosurveillance vol 13, 40, Oct.2, 2008	チェコ共和国保健保護庁によると、2008年5月以降チェコにおいてA型肝炎症例の増加が観察されており、年初から9月28日までに602例が報告され、2007年の同時期に8倍、2003~2007の各都市の同時期平均と比べて6倍であった。
2	B型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: e52-56	2000年1月から2004年12月に日本で新たにB型肝炎表面抗原陽性となった患者を調査したところ、552名中23名(4%)がHBV再活性化で、529名が急性B型肝炎であった。再活性化群は急性B型肝炎群に比べ、年齢およびHBV DNA値が有意に高く、ALTおよびアルブミンピーク値は低かった。また再活性化群の4分の1の患者が劇症肝不全となり、死亡した。肝臓関連死亡率は再活性化群の方が有意に高かった。
3	B型肝炎	FDA/CBER 2008年5月 業界向けガイダンス(案)	FDAはB型肝炎コア抗原に対する抗体(抗HBc抗体)が陽性となったために供血延期となった供血者のリエントリー・アルゴリズムを提案するガイダンス案を発表した。これまで、抗HBc抗体が2回以上陽性となった供血者は無期限に供血延期とされていたが、本ガイダンスでは2回目に陽性となった後、8週間以上経ってからHBs抗原、抗HBc抗体および高感度HBV NATIによってHBV感染が否定された場合は供血可能となる。
4	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	スロヴェニアで、HBs抗原陰性で抗HBc抗体陽性、抗HBs抗体低力価陽性、HBV DNA陽性の濃厚赤血球と新鮮凍結血漿を輸血された59歳の患者が4ヶ月後に急性B型肝炎を発症した。また同じ供血血液由来のRCCの輸血を受けた71歳の患者も7ヶ月後にHBV感染を認めた。2例ともドナーと同じ配列を有するジェノタイプDが感染していた。潜在性B型肝炎ウイルス感染者の血液は抗HBs抗体が陽性にかかわらず、感染性を有した。
5	B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	1971~2005年の35年間に虎ノ門病院に来院した急性HBV感染患者153名および慢性HBV感染患者4277名について5年間毎のHBVジェノタイプ/サブジェノタイプを調べた。急性感染患者数は35年間で増加し続けた。慢性感染患者は1986~1990年が最大であった。ジェノタイプは急性感染患者と慢性感染患者で大きく異なった(A, B, C型: 28.6%, 10.3%, 59.5% vs 3.0%, 12.3%, 84.5%)。最近では外国のサブジェノタイプB2/Baが増加する傾向がある。
6	B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	供血時には血清検査陰性であったが、その後HBV DNAが検出された供血者由来の血液成分を輸血された2名の免疫不全患者について調べた。受血者1はHBVワクチン接種を受け、抗HBsキャリアであったが、赤血球輸血後13ヵ月で急性B型肝炎を発症するまで他のHBVマーカーは全て陰性であった。供血者とHBVシークエンスが一致したため、輸血関連感染と確認された。受血者2は血小板輸血を受けたが、感染していなかった。
7	B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	HBV DNA陽性かつ表面抗原(HBsAg)陰性オカルトHBV感染の検出感度を上げるために、HBV DNAとHBsAgを同時に濃縮する新規方法を開発した。二価金属存在下でpoly-L-lysineでコートした磁気ビーズを使用し、ウイルス凝集反応を増強させ、ウイルスを濃縮する方法により、HBV DNAとHBsAg量は、最高4~7倍に濃縮された。本方法により、EIAとHBV NATの感度が上昇し、HBsAg EIAを用いてオカルトHBV感染者40名のうち27名を検出することができた。
8	C型肝炎	第70回 日本血液学会総会 2008年10月10~12日	症例は再生不良性貧血の54歳の女性で、2007年6月20日に初回輸血が実施され、初回輸血前検査はHCV抗体陰性、HCVコア蛋白陰性で、あった。10月1日の輸血後、HCVコア蛋白が陽性化したため、遡及調査を開始した。患者には計54本の輸血があり、保管検体の個別NATにより、1検体からHCV-RNAを検出した。患者と献血者のHCV Core-E1-E2領域の塩基配列が一致したことから、本症例は輸血によるHCV感染である可能性が極めて高い。
9	C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 627-633	フランスの大学病院の血液透析ユニットでのHCV伝播リスクにおける環境汚染および標準的注意の非遵守の役割を評価した。試験期間中にHCV陽性となった2名のうち1名は、同ユニットで治療中の慢性感染患者と同じウイルス株に感染していることが系統遺伝学的解析により明らかとなった。環境表面検体740例中82例がヘモグロビンを含み、その内6例がHCV RNAを含んでいた。手の衛生に関する遵守率は37%、患者ケアの直後に手袋をはずしていたのは33%であった。
10	C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	ニューヨーク市のEast Harlemのクリニックから18歳以上で血中HCV PCR陽性の吸引用麻薬常習者38名の鼻汁検体および吸引に使用したストローを入手し、血液およびHCV RNAの存在の有無を調べた。鼻汁検体28例(74%)、ストロー3例(8%)から血液が検出され、鼻汁検体5例(13%)、ストロー2例(5%)でHCV RNAが検出された。HCVウイルスの鼻腔内伝播のウイルス学的妥当性が示された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
11	E型肝炎	Chin J Biol 2007; 20: 570-574	HEVの中国長春地域の動物群における感染状況および系統進化の関係について分析を行った。抗HEV抗体陽性率は、ブタ86.61%、ウシ45.86%、ヒツジ7.53%、シカ43.61%、ニワトリ4.88%、ウマ15.74%で、ブタにおける流行の割合は他の動物群に比べ明らかに高かった。また、ブタ感染HEVの遺伝子配列と、ヒトにおける散発性E型肝炎ウイルスの遺伝子型である4型の相同性が最も高かった。
12	E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	2004年9月20日に39歳日本人男性から献血された血液はALT高値のため不適当とされ、HEV陽性であった。当該ドナーの遡及調査の結果、9月6日にも献血を行い、HEV RNAを含有する血小板が輸血されていた。当該ドナーと親戚は8月14日にブタの焼肉を食べており、父親は9月14日に急性肝炎を発症し、E型劇症肝炎で死亡した。他に7名がHEV陽性であった。レシピエントは輸血22日目にALTが上昇し、HEVが検出された。
13	E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl.1): 282-283	2005年の中国の4都市(Beijing, Urmuchi, KunmingおよびGuangzhou)における供血検体のHEV感染率を調べた。その結果、ルーチン検査(抗HCV、抗HIV1/2、HBsAg、梅毒およびALT)陰性供血者の約1%は抗HEV IgMまたはHEV Ag陽性で、HEV感染の可能性があった。また、ALTスクリーニングは中国のHEV感染血排除に役立つ可能性があった。
14	E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	日本のブタから分離されたHEVジェノタイプ3または4の4株について熱処理およびフィルターによる除去の程度を検討した。HEVはアルブミン溶液中で60°C5時間加熱後およびフィブリノゲン中で60°C72時間加熱後も感染力が検出されたが、PBS中で60°C5時間加熱後およびフィブリノゲン中で80°C24時間加熱後には検出限界以下に不活化された。また、20nmナノフィルター使用により完全に除去された。
15	E型肝炎	IDWR感染症週報2008年 第36週	1999年4月(感染症法施行)～2008年第26週に都道府県から報告された288例のうち、国内感染例218例、男性177例、女性41例である。感染経路は経口感染があり、飲食物の記載があったものは111例で、内訳はブタ47例、イノシシ24例、シカ15例である。予防は肉や内臓を充分加熱することである。
16	HIV	WTOP news. Com 2008年8月15日	アルゼンチンCordoba州の公立病院において、輸血を受けた集中治療中の患者2名がHIVに感染した。供血者は12月に供血した時にはHIV陰性であった。5月に再び供血した時にはHIV陽性であったが、血液は既に使用されていた。アルゼンチンでは約12万人がHIVに感染している。
17	インフルエンザ	CDC/MMRW 57(49)1329-1332/2008.12.12	米国2008年9月28日～11月29日におけるインフルエンザウイルスの活動性に関する報告。新規のインフルエンザAウイルスに感染したヒト症例1例(14歳)がTexasから報告された。ブタとの数回接触後、ブタインフルエンザウイルスA/H1N1に感染した。症例は回復し、患者の家族又は接触者には発症していない。
18	インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	タミフル耐性型の「通常の」季節性インフルエンザが急速に拡大しており、南アフリカでは今年の冬(2008～2009年)のインフルエンザに効果がないおそれがある。WHOのデータによると同国でH1N1株に感染した107名に関する検査の結果、全員がタミフルに耐性の突然変異株を保有していた。2008年4月1日から8月20日に南半球の12カ国のH1N1インフルエンザ感染患者由来検体788例中242例(31%)がタミフル耐性に関係があるH274Y突然変異を有していた。
19	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2008; 358: 2573-2584	細胞培養で製造したH5N1鳥インフルエンザワクチンのPhase 1および2試験を行った。その結果、大多数の被験者においてアジュバントなしの7.5 μ gまたは15 μ gのヘマグルチニン抗原を含有するワクチンの2回接種が、様々なH5N1ウイルス株に対する中和抗体の合成を誘発することが示された。注射部位での軽度の痛みと頭痛が主な有害反応であった。このワクチンが有用であることが示唆された。
20	鳥インフルエンザ	WHO/EPR 2008年6月19日	WHOに報告された2003年以降のトリインフルエンザ確定ヒト症例の集計数である。2008年は、5月28日現在、バングラデシュで1例(死亡0例)、中国で3例(死亡3例)、エジプトで7例(死亡3例)、インドネシアで18例(死亡15例)、およびベトナムで5例(死亡5例)が報告され、合計34例(死亡26例)である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
21	鳥インフルエンザ	Wkly Epidemiol Rec 2008; 83: 359-364	2007年10-11月にパキスタンで発生したトリインフルエンザA(H5N1)の家族クラスターでは、25~32歳の兄弟3例が確定症例で、内1例が死亡し、2例は回復した。更に、同一家族内で感染可能性例1例、および無症候性の血清反応陽性例1例が検出された。1例目の症例のみが感染した家禽への接触歴があった。家族内での限定的なヒト-ヒト感染が発生したが、コミュニティーへは拡大しなかった。
22	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	2008年9月に、イタリアで何年かぶりにヒトのウエストナイルウイルス(WNV)脳炎が2例報告された。1例目はFerraraとBolognaの間に住む80歳代の女性、2例目はFerraraに住む60代後半の男性であった。また、ウマ6頭とトリ13羽でWNV感染が確認された。WNV髄膜脳炎の積極的サーベイランスプログラムが開始され、当該地域で供血者スクリーニング用NATが導入された。また、当該地域に1日以上滞在したことのある供血者を28日間供血延期する措置がとられた。
23	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2008; 57(21): 577-580	2007年7月19日、米国赤十字はプエルトリコにおいてNATによる献血のスクリーニングを行い、WNV陽性を示した3名をプエルトリコ保健省に報告した。これら3名はプエルトリコにおいてWNV感染が確認された最初のヒト症例である。WNVによりもたらされる公衆衛生上の脅威を監視および評価するためには、WNV感染に関する臨床医の意識向上、調査の継続ならびに教育活動が必要である。
24	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 14:804-807 May2008	ハリケーン被害地域(ルイジアナ州およびミシシッピ州)の2006年のウエストナイルウイルス感染発生率は2002-2005年の平均発生率と比較して2倍以上に増加した。
25	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080828.2697	インド東部のウツタルプラデシュ州で小児を死亡させている原因不明のウイルスは、インド保健省の専門家により急性脳炎症候群と診断された。同州の13の地区では、数週間におよそ800人の患者が発生し150人が死亡したと報告され、その数は増加すると見られている。血液検査で日本脳炎陽性となった患者は5%以下であった。日本脳炎とエンテロウイルスとの混合感染の可能性について調査中である。
26	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2008年11月6日	2008年6月2日に短期間の疾病後に処分されたBritish Columbiaの乳牛は、カナダで13頭目のBSE牛であることが確認された。どの部位もヒト食料または飼料システムに入っていない。該当牛は2003年4月22日生まれで、死亡時61月齢であった。生まれてから一生同じ農場で過ごした。一緒に飼育されていた207頭について飼料コホートが実施された。本症例検出により、カナダBSEリスクパラメーターは変更されない。
27	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2008年8月15日	2008年8月15日、CFIAは、Albertaの6歳の肉牛がBSEであることを確認した。どの部位もヒト食料または飼料システムに入っていない。国際ガイドラインに基づいた疫学的調査を実施中である。
28	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC/MMWR 2008; 57(42): 1152-1154	日本のCJDサーベイランスグループの調査によると、死体硬膜移植片(大部分がドイツ製品Lyodura)に関連したCJDと同定された症例数は1996年には43例であったが、2008年には132例に増加した。132例全員が1978~1993年に硬膜移植を受けており、1985年9月から2006年10月に発症した。発症時の平均年齢は55歳(18~80歳)で、潜伏期間中央値は12.4年で、最長24.8年であった。
29	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	オーストリアの39歳男性が感覚異常などの神経症状で入院後、急速に悪化し、4ヶ月後に死亡した。組織学的検査で海綿状変化、神経細胞脱落及びグリオシスが、免疫組織化学的検査でびまん性シナプティックな異常プリオンの沈着が見られ、CJDと診断された。また患者のPRNPは129Met-Metであった。患者は22年前まで死体由来のヒト成長ホルモン(hGH)製剤治療を受けており、医原性リスクが認められるため、孤発性若年性CJDの可能性も否定できないが、WHO基準により確定医原性CJDと分類された。
30	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	CJDサーベイランス委員会による調査では1999年4月から2008年2月までの9年間に日本国内で1069例がプリオン病と判定された。うち孤発性CJDが821例(76.8%)、遺伝性プリオン病が171例(16.0%)、硬膜移植後CJD74例(6.9%)、変異型CJD1例(0.1%)、分類不能2例(0.2%)であった。日本のプリオン病剖検率は欧米諸国より著明に低かった。孤発性CJDの病型は欧米に比べMM2型が多かったが、非典型例が多く剖検されている可能性が考えられた。

No.	感染症(PT)	出典	概要
31	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	ウイルス除去膜濾過工程を含んでいる製剤(血液凝固第VIII因子製剤: プラノバ20N濾過、抗HBs人免疫グロブリン製剤: プラノバ35N濾過)について、263K株感染ハムスターより得たSUS処理PrPScを用いて、その除去効果を検証した。その結果、SUS処理PrPScは濾過膜の孔径よりも小さいにもかかわらず、プラノバ35Nやプラノバ20Nで除去された。PrPScが凝集したり、膜へ吸着したためと考えられる。
32	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	スクレイピー-263K感染ハムスター脳乳剤を脳内接種したハムスターにおける血中PrPres経時的変化を追跡したところ、PK抵抗性3F4反応性蛋白バンドは、感染後4~6週で認められ、10週ではほぼ消失した。発症末期では血中PrPresと見られる蛋白バンドは認められなかった。PrPresをマーカーとした血液検査は感染後発症前~発症中期までに限定される可能性が示唆された。
33	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/Press Releases 2008年8月28日	Blood誌のprepublished onlineに掲載されたヒツジにおける研究によると、輸血によるBSE伝播のリスクは驚くほど高い。エジンバラ大学で行われた9年間の研究は、BSEまたはスクレイピーに感染したヒツジからの輸血による疾病伝播率を比較した。その結果、BSEおよびスクレイピーとも輸血によりヒツジに効率よく伝播された。症状を呈する前のドナーから採取された血液によっても伝播することが示された。
34	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	ヒツジを用いた感染実験において、BSEは36%、スクレイピーは43%と予想以上に高い輸血伝播率を示した。高い伝播率および臨床的に陽性のレシピエントにおける比較的短期間の一定した潜伏期間は、血中の感染性力価が高いことおよびTSEが輸血により効率的に伝播することを示唆する。血液製剤によるヒトでのvCJD伝播を研究するために、ヒツジが有用なモデルであることが示された。
35	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2008; 134: 757-768	マウスPrPScと混合させることによって折り畳み異常が起こったハムスターPrP ^C は、野生型ハムスターに対して感染性を起こす新規なプリオンを生成した。同様の結果は、反対方向でも得られた。PMCA増幅を繰り返すとin vitro産生プリオンの順応が起こる。このプロセスは、in vivoでの連続継代に観察される株の安定化を暗示させる。種の壁と株の生成がPrP折り畳み異常の伝播によって決定されることが示唆される。
36	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	263Kスクレイピーの臨床症状を呈するハムスター22匹の尿にTSE感染性があることが示された。これらの動物の腎臓と膀胱のホモジネートは20000倍以上希釈してもTSE感染性があった。組織学的、免疫組織化学的分析では、腎臓における疾患関連PrPの散発的な沈着以外、炎症や病変は見られなかった。尿中のTSE感染性が、自然のTSEの水平感染に何らかの役割を果たす可能性がある。
37	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Infect Dis 2008; 198: 81-89	未接種のシリアンハムスター(Shas)を、Sc237プリオンに経口的に感染させたShasと共に飼育するかまたはその排泄物に曝露させた。曝露した動物でのプリオン感染率は80-100%で、潜伏期間は140日以下であり、糞、おそらく糞食を介した伝播が示唆された。Shaプリオンを過剰発現するトランスジェニックマウスに脳内接種したところ、潜伏期間の無症候期を通して低レベルの感染性プリオンの排泄が続いていた。
38	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e2878	野生型マウスおよびヒトPrPを発現しているトランスジェニックマウスに、輸血関連vCJD感染第1号症例由来の脳材料を接種し、輸血によるヒト-ヒト間の2次感染後のvCJD病原体の性質について調べた。その結果、潜伏期間、臨床症状、神経病理学的特徴およびPrP型について、vCJD(輸血)接種群はvCJD(BSE)接種群と類似していた。vCJD病原体は、ヒトにおける2次感染により、有意な変化が起こらないことが明らかとなった。
39	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	非定型BSE(BASE)に感染した無症候のイタリアの乳牛の脳ホモジネートをカニクイザルに脳内接種した。BASE接種サルは生存期間が短く、古典的BSEまたはvCJD接種サルとは異なる臨床的展開、組織変化、PrPresパターンを示した。感染牛と同じ国の孤発性CJD患者でPrPが異常なウエスタンブロットを示す4例のうち3例のPrPresに同じ生化学的特徴を認めた。BASEの霊長類における高い病原性および見かけ上孤発性CJDである症例との関連の可能性が示唆された。
40	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	米国アラバマのBSE確定ウシでウシプリオン蛋白遺伝子(Prnp)におけるE211Kと呼ばれる新規の遺伝子変異を同定した。この変異は遺伝性CJDのヒトにおいて見られるE200K病因性変異と同一であり、ウシPrnp遺伝子内で潜在的病原性変異を有するBSE確定ウシの最初の報告である。最近の疫学的試験によるとK211アレルは6062頭のウシで全く検出されず、E211K変異は極めて頻度が低い(2000例中1例未満)。

No.	感染症(PT)	出典	概要
41	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	畜産技術 2008年6月号19-22頁	PrPBSEの取り込みに関わる腸粘膜の細胞を同定するため、ウシ腸上皮細胞株を樹立し、M細胞分化誘導系を確立した。この系を用いてM細胞がPrPScを取り込むことを証明した。この結果から、PrPBSEが経口摂取によって感染するときに、腸のパイエル板を覆うドーム部の上皮層にあるM細胞が関与することが強く推定された。
42	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080926.3051	スペイン保健省は、ヒト型狂牛病で死亡したスペイン人男性の母親もまた同じ疾病で死亡したと発表した。同じ家族で2名が狂牛病で死亡したのは世界で初めてと思われる。母親は60代初めて、2008年8月に死亡し、2008年9月24日に狂牛病が原因であったことが確定された。彼女の息子は2008年2月に同じ病気で死亡していた。2005年以降、スペインでは計4例の狂牛病確定例が報告されている。
43	エボラ出血熱	OIE Press Release 23Dec2008	ブタにおけるEbola-Restonウイルスの初めての検出:フィリピンにおいてブタからEbola-Restonウイルスが検出されたことを受けて、フィリピン政府がFAO、OIEおよびWHOに専門家の派遣を要請した。2007年および2008年にNueva EcijaおよびBulacanの農場においてブタの死亡が増加したことからフィリピン政府による調査が開始され、ブタ繁殖・呼吸器障害症候群(RRRS)およびEbola-Restonウイルス感染が確認された。フィリピンのサルにおいては感染が確認されている。
44	エボラ出血熱	WHO/EPR 2009年2月3日	フィリピン政府は2009年1月23日に感染ブタと接触したと思われる一人がエボラウイルス・レストン株(ERV)の抗体(IgG)検査で陽性となったことを伝えたが、1月30日にさらに4人がERV抗体検査陽性となったことを発表した。5人は健康状態もよく、いずれも感染ブタに直接接触したことでウイルスに暴露された可能性がある。
45	エルシニア感染	Am J Med 2008; 121: e1	55歳の健康な男性が右腕にゴルフボール大の塊ができ、2、3日で3倍の大きさになったため、切開し、排膿した。膿瘍培養からYersinia enterocoliticaが検出された。患者は豚肉を切る仕事をしており、右指を切ることが頻繁にあった。豚肉への曝露によりYersiniaが直接皮膚に接種され、腋窩に膿瘍を形成したと考えられる稀な症例で、初めての症例報告と思われる。
46	クロストリジウム感染	ProMED-mail20080522.1683	中国CDCによると、Sichuan大学Huaxi病院で30名の患者がガス壊疽に感染した。感染の拡大を防ぐため隔離病棟が設けられた。地震で負傷した患者は診断のため隔離病棟に送られる。今までのところ同病院での交差感染はない。
47	大腸菌性胃腸炎	Jpn J Infect Dis 2008; 61: 161-162	2006年10月2日に、腸管出血性大腸菌O157:H7(VT1&2)症例が健康福祉センターに報告された。患者は1歳の女児で、横浜市保健所は便検体からPCRとRPLAによりベロ毒素を検出した。9歳の兄からも同菌が検出された。患者の家族は横浜市にある牧場で搾乳イベントに参加しており、その乳牛から同菌が検出され、PFGE分析の結果、乳牛から感染したことが示唆された。
48	細菌性胃腸炎	ProMED-mail2008030505.0901	2008年3月5日、フィリピンの保健当局は、首都近郊の市で1ヶ月の内に1400人以上が腸チフス症状を示したと発表した。2008年2月16日以降、1477例が腸チフス症状を呈し、うち436例が6ヶ所の病院で治療を受けた。腸チフス検査は高価なため、その内の37例が血液検査により確定されただけである。今までのところ死亡例は報告されていない。
49	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080523.1697	2008年5月22日、インドKarnataka地方では2100例以上がチクングニヤと確定されており、チクングニヤ症例数は、4000例以上と推定されると副長官が述べた。Sullia talukが最悪で、報告された2100例のうち1300例が同地区の症例である。
50	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080602.1759	スリランカRatnapura地区におけるチクングニヤ症例は10000~15000例であることが明らかとなった。チクングニヤ症例の急激な増加を受けて、緊急事態が宣言された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
51	チクングニヤウイルス感染	Transfusion 2008; 48: 1333-1341	2005年から2007年に、チクングニヤウイルス(CHIKV)はレユニオン島で大流行し、供血は2006年1月に中断された。大流行中のウイルス血症血供の平均リスクは、10万供血あたり132と推定された。2006年2月の最流行時におけるリスクは、10万供血あたり1500と最高であった。この期間中、757000人の住民のうち推定312500人が感染した。2006年1月から5月の平均推定リスク(0.7%)は、CHIKV NAT検査による血小板供血のリスク(0.4%)と同じオーダーであった。
52	チクングニヤウイルス感染	J Gen Virol 2008; 89: 1945-1948	2007年にチクングニヤウイルス(CHIKV)の新たな広範囲のアウトブレイクがあったインドのケララ州の3つの最悪感染地区で収集された分離株ウイルスについて、遺伝子配列の解析を行った。その結果、糖蛋白エンベロープ1(E1)遺伝子の配列に、ヒトスジシマカにおけるCHIKV感染性を上げるとされるA226V変異が認められた。
53	黄熱	ProMED-mail20080406.1268	ブラジルSan Jose do Rio Preto地域で2匹のサルが黄熱感染により死亡した事が確認されたため、Sao Paulo州はこの疾病に対する新たな警告を出した。GrandeおよびParana River地域に住むまたは訪問する人は全員、黄熱ウイルスに対するワクチン接種を受けなければならない。
54	デング熱	Hong Kong Med J 2008; 14: 170-177	1998~2005年に香港の公立病院に入院したデング確定患者全員の医療記録をレトロスペクティブに検討した。126例中123例(98%)がデング熱、3例(2%)がデング出血熱であった。1例が輸血により感染したデング熱であった。116例が輸入症例、10例が地域症例であった。デングウイルス1型が最も多く、次に2型、3型、4型の順であった。死亡例はなかった。発熱、皮疹を呈し、血小板減少などを示す渡航歴のある患者には鑑別診断にデング熱を含めるべきである。
55	デング熱	J Clin Virol 2008; 42: 34-39	2004年のシンガポールTan Tock Seng病院のデング患者について、初回診察時の人口統計学的、臨床的および臨床検査変数をデング出血熱(DHF)発症傾向を決定するために比較する、後ろ向きコホート研究を行った。デング患者1973例のうち118例(6%)がDHFで、内82例(4.2%)が入院中にDHFを発症した。多変量解析の結果、初回診察時の出血や血中尿素の増加などがDHF発症を予測する上で有用と思われた。
56	デング熱	ProMED-mail20080414.1346	マレーシアにおいて2008年1月~3月に、9889例がデング熱と診断され、その内26例が死亡したと疾病管理当局が述べた。昨年同時期は13949例で内34例が死亡で、昨年より減少している。シンガポールでは死亡率の高いデング出血熱が発生している。2008年1月~3月における感染数は2007年同時期より60%多い。
57	デング熱	ProMED-mail20080505.1542	香港Centre for Health Protectionは2008年の11例目のデング熱症例(30歳男性)を確認した。この男性は2008年4月5~13日にモルジブに滞在し、4月18日に発症した。
58	デング熱	ProMED-mail20080519.1668	フィリピン保健局国立疫学センターの調査によると、2008年1月1日~4月10日のデング熱症例数は9555例で、2007年同時期よりほぼ30%多い。デング熱による死亡例は111例で、昨年より29例多い。首都地区で2443例の犠牲者が報告されている。
59	デング熱	ProMED-mail20080707.2059	インドネシアJakarta Timurでは、65地区中46地区がデング熱警戒地区に指定された。Jakarta東部ではデング熱患者数が合計7026例に達した。
60	デング熱	ProMED-mail20080806.2407	2008年7月31日、タイの公衆衛生当局は、デング熱が国中に広がり、今年になってから今までに40000名以上が感染し、48名が死亡したと述べた。ベトナムでは2008年7月下旬現在、21000名のデング熱症例が報告されている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
61	デング熱	ProMED-mail20080811.2486	ラオスでは今年になってから1900名以上のデング熱症例が発生し、その内18名が死亡したため、保健当局は注意を呼びかけている。2008年7月には約500症例および死亡15例が報告され、この数字は更に増加している。
62	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1348-1354	2005年9月20日～12月4日のプエルトリコの米国赤十字におけるすべての供血16521検体中のデングウイルス(DENV) RNAをTMA(transcription-mediated amplification)法で測定したところ、12検体(0.07%)がTMA陽性であった。4検体は、RT-PCR(DENVセロタイプ2および3)陽性であった。RT-PCR陽性4検体中3検体でウイルスを培養することができた。TMA陽性12検体中1検体がIgM陽性であった。1:16に希釈した場合は5検体のみTMA陽性であった
63	デング熱	WHO 2008年4月10日	2008年3月28日現在、ブラジル保健局はデング出血熱647例を含むデング熱症例120570例を報告している(うち死亡48例)。2008年4月2日、リオデジャネイロ州は確定死亡例67例および調査中の死亡例58例を含む57010例を報告した。同州では過去5年間はDEN-3が主なセロタイプであったが、DEN-2の循環が再興しており、小児における重篤例および死亡例が増加している。
64	デング熱	ProMED 20080701.2005 JUL.2008	2008年、バイーア州においてデング熱症例30,000例以上が記録されており、2007年同時期と比較して224%増加した。死亡症例は6件であった。また、リオデジャネイロにおいても195000件が登録され、死亡例は142件であった。
65	デング熱	ProMED20081028-3398 Oct28,2008	セアラ州におけるデング熱の検査確認症例は41172例、死亡症例は16例である。1986年以来、1994年の47789例について2番目に大きい流行である。州都フォルタレーサでセアラ集の検査確認症例の74.4%が発生した。
66	デング熱	ProMED 20081104-3459 Nov04,2008	リオデジャネイロ州においてデング熱が大発生しており2008年10月29日までに登録されたデング熱症例は250026(死亡確定症例181例を含む)で有、他にデング熱による死亡が疑われる143件について調査中である。
67	デング熱	N Engl J Med 359(14)1526-1527 Oct.2, 2008	シンガポールにおける輸血によるデング熱出血感染症:2007年7月に献血をしたデング熱ウイルス(2型)無症候性ドナーから赤血球及び新鮮凍結血漿レシピエント(2例)がデング熱ウイルス(2型)陽性であることが判明し、血小板レシピエント(1例)も二次性デング熱感染について血清学的エビデンスがあった。
68	デング熱	ProMED mail20081118-3636 Nov18, 2008	デング出血熱、2008年最新情報-インドネシア(ジャワ):中部ジャワ州Banyumas県の衛生当局は2008年11月中旬までのデング熱症例551例が記録され、2007年と比べて症例数が2倍以上増加したことを報告した。死亡例は5件であった。
69	デング熱	ProMED mail20081118-3636 Nov18, 2008	デング出血熱、2008年最新情報-米領サモア:2008年1月以降のデング熱の確定診断症例数が400例に達した(評価者注:2007年は109例)。うち死亡は1例である。
70	デング熱	Thanh Nien News Nov.27, 2008	季節外れのデング熱症例の増加-ホーチミン市:ホーチミン市熱帯病院の副院長によると毎日30例から50例のデング熱症例を受け入れ150から200例を入院させている。市の保健当局高官によると2008年には14000例が記録され、2007年に比べて35%の増加であると述べた。

No.	感染症(PT)	出典	概要
71	デング熱	Am J Trop Med Hyg 2008; 79: 495-504	2001年および2002年の台湾南部におけるデング熱アウトブレイクでは、2002年の方が感染症例数および重症度とも増加した。重症化を伴ったウイルス進化を調べるため、流行時の患者31名(デング熱14名、デング出血熱17名)の血漿由来のデングウイルス2型配列を調べた。エンベロップおよび全ゲノム配列解析の結果、2つのアウトブレイクのウイルス間で4つの遺伝子における5つのヌクレオチド変化が明らかとなり、2002年ウイルスは2001年ウイルスのマイナー変異株由来であることが示された。
72	アメリカ・トリパノソーマ症	Transfusion 2008; 48: 1862-1868	スペイン、カタルーニャ血液銀行は、高リスク供血者におけるシャーガス病スクリーニング計画を実施し、供血者集団でTrypanosoma cruzi (T. cruzi) 感染の血清学的陽性率を調査した。その結果、全体の陽性率は0.62% (1770名中11名) で、最も陽性率が高かったのはボリビア人であった (10.2%)。陽性者11名中1名は、シャーガス病流行地域に数年間滞在したことのあるスペイン人であった。非流行国の高リスク供血者にT. cruziスクリーニング検査を実施する必要性がある。
73	パルボウイルス	Biotechnol Prog 2008; 24: 554-560	レジン上に3量体ペプチドを結合し、PBSまたは血漿溶液に添加したブタパルボウイルス (PPV) への選択的な結合能を有するペプチドをスクリーニングした。その結果、WRW (トリプトファン-アルギニン-トリプトファン) 結合レジンは7.5% ヒト血漿中のPPVを検出限界以下に除去することができた。
74	パルボウイルス	FDA/CBER 2008年7月 業界向けガイダンス(案)	血漿由来製品によるパルボウイルスB19伝播リスクを低減するための核酸増幅検査 (NAT) についてのガイダンス案が示された。全ての血漿由来製剤について、製造プール中のパルボウイルスB19 DNAのウイルス負荷を確実に10000 IU/ml未満とするため、製造過程の品質管理検査としてNATを実施すべきである。ミニプール中でのNATの感度は少なくとも1000000 IU/mlとするべきである。これらの基準を超えるものは使用してはならない。
75	パルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	血漿交換、コルチコステロイドおよびコリンエステラーゼ阻害剤による治療を受けていた重症筋無力症患者が、アルブミンを用いた血漿交換を行った2週後にパルボウイルスB19感染による赤芽球減少症と診断された。アルブミン由来感染かどうかを確定することはできなかったが、アルブミンなどの血液製剤によるB19感染を除外することはできない。
76	トキソプラズマ・パルボウイルス感染	Ginekol Pol 79; 186-191 2008	ポーランドで急性トキソプラズマ症および急性パルボウイルス症の血清学的特徴が証明された妊婦の胎児に、胎児水痘症あるいは脳質拡大、胎児水腫、子宮内胎児死亡、羊水異常が見られた。
77	ハンタウイルス	ProMED 20080714-2139 Jul14, 2008	ロシア (バシコルトスタン共和国) において腎症候性出血熱 (HFRS) に400人以上が感染し、2例が死亡した。400例は2007年に記録された症例数のほぼ2倍である。同共和国領域は世界でも有数のHFRSウイルス分布の高い流行地域で有、感染率のピークは赤ハタネズミの個体数増加と一致すると予想された。
78	ハンタウイルス	ProMED mail 20081120-3664 Nov20, 2008	腎症候性出血熱-ロシア (サマラ州): サマラ州の住人における腎症候性出血熱の症例数は2007年の3倍に増加し、2008年10月までの症例数は222例であった。調査によりヒトへの感染源であるげっ歯類の28%が感染していることが示された。
79	黄色ブドウ球菌感染	ProMEDmail 20090126.0348	米国Iowa大学公衆衛生学Tara Smith教授はブタ生産システム会社からMRSA ST398株がブタとヒトにおいて発見され、ブタ-ヒト間の伝搬が示唆されたことを報告した。
80	ブルセラ症	Oie http://www.oie.int/wahid-prod/public.php?page=single_report&pop=1&reportid=7129	2008年5月19日、ウクライナIzmail地方でブタ34頭におけるブルセラ症のアウトブレイクが確認された。疑い例はブタ163頭で全て屠殺された。2008年6月20日に清掃および消毒が完了した。